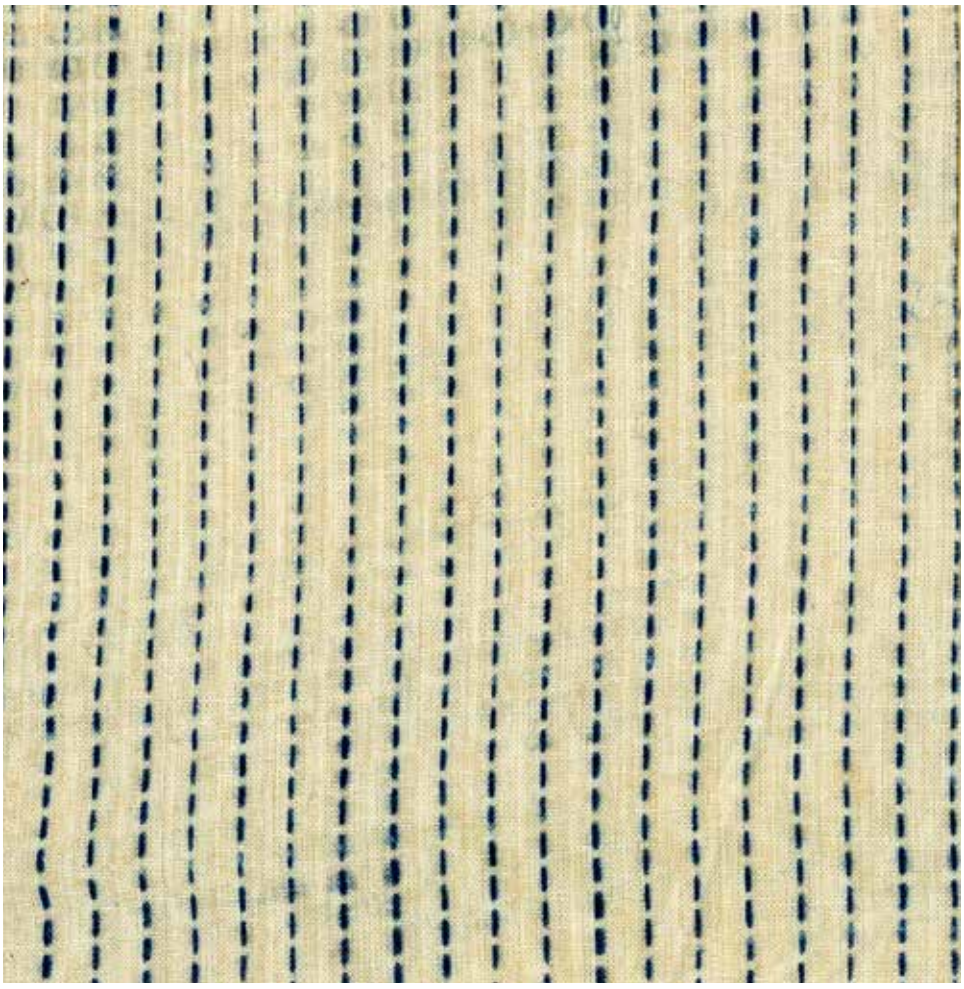
有松

NO.80　有松まちづくりの会



◇縫い養老絞り

縫い養老絞りとは、等間隔の針目で運針するもので、染め上がった模様は縞柄で、38cm 巾に対して 50 ～ 55 本くらいの縞柄になります。
この絞りは下絵をつけず勘だけで行い、他の絞りの様に２本取りして縫わず１本取りで縫い締めます。

解説：竹 田　昌 弘

歴史生かし新時代への挑戦

有松まちづくりの会副会長　藤枝　靜次

藍に染められた絞りの暖簾が風にゆれ、古き商家の佇まい、江戸時代の浮世絵のような景観が今も静かに美しさを保つ有松。その文化や情緒を後世に繋ぐ活動をしている皆様に心より敬意を表します。

さて有松は、慶長十三年（一六〇八）尾張藩の命により入植した八人の若者により開村しました。生活の糧を得るべく東海道の旅人等に土産品として、有松絞りを考案して販売、町の基礎を作りました。その後、天明四年（一七八四）の大火で二四二軒が焼失。藩の援助を背景に茶屋集落から絞り産業の町へとたゆまぬ努力を重ねて復興を遂げ、防火に配慮した瓦葺・塗籠造りの町屋が出現しました。明治維新以降、有松絞りの専売権がなくなり、東海道往来者も減り、絞り商には苦しい時代となりましたが、新しい絞りを次々と開発し、明治後期から昭和初期にかけ最も繁栄し、軒の高い町屋が多く建てられました。

緻密な有松の絞りは一〇〇種類以上の技法を開発し、平成四年、名古屋・有松鳴海地区で開催された初の「国際絞り会議」やそれに続く「ワールド絞りネットワーク」の発足を契機にその魅力を世界に発信し続けています。

平成十八年九月、地元八団体による「有松東海道無電柱化の会」を設立。多くの方々のご尽力により平成二十五年三月工事が完了し、有松東海道にいにしえの景観が甦りました。

平成二十一年、有松まちづくりの会が中心となり、重伝建推進委員会を発足させました。住民の同意をうけて、町並み・家屋調査が行われ、平成二十八年二月には名古屋市の伝建保存地区に指定されました。そして同年七月、文科省により有松の町並みは重要伝統的建造物群保存地区に選定され、既にあらゆる面での展開に大きく寄与し始めています。

平成二十九年十一月、第四十回全国町並みゼミ名古屋有松大会が「町並みはわたしが守る〜みんなのものから四十年〜」をテーマに開催されました。基調講演で須田寛氏は日本の観光「きょう、いま、あす」と題して、観光は経済活動であり文化活動であると語られ、お客様がまちを訪れてくれるまちづくり「常在観光」が必要だと説かれました。

今後有松は、歴史ある「絞り産業」「有松東海道の町並み」「山車とからくり」を保存・発展させ、時代が新元号にかわり、外国人観光客の増大、リニア中央新幹線開通等大幅に変化するであろう世の中に対応したまちづくりを「常在観光」を意識しつつ行いたく考えています。既に有松の各団体や会員等からご意見・ご提案をいただいております。後継者育成、受け入れ体制の改善（外国人・トイレ・駐車場等）、国内外への情報発信等すべきことは沢山あります。新時代へ有松を繋いでいきましょう。

平成最終号にあたり一文書かせていただきました。今後とも有松にご支援の程お願いいたします。

有松を「名古屋市観光戦略」に位置づけました

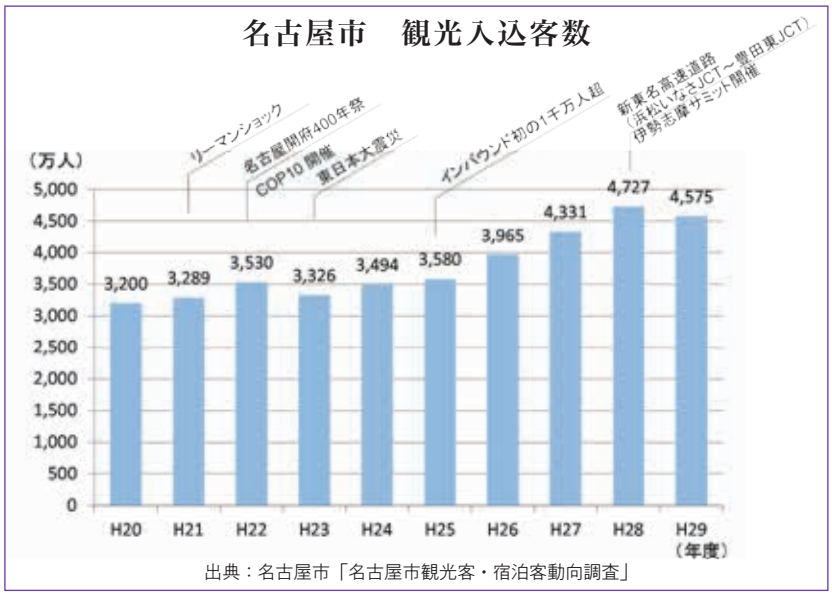
名古屋市観光文化交流局観光交流部観光推進室長　大野　壽久

日頃は、名古屋市の観光行政に多大なるご協力を賜り誠にありがとうございます。有松地区は、地域の皆様がご尽力されたことにより、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。また、伝統産業である有松鳴海絞が魅力の一つでありますが、昨今、観光客のニーズが、「モノ」から「コト」消費に移行していることから、「歴史的な町並みを歩き、絞りを体験すること」が、非常に重要な着地型観光のコンテンツとなっております。

本市では、次期観光戦略を策定いたしました。今回は、この次期観光戦略の中での有松地区の位置づけについて、ご紹介させていただきます。

次期観光戦略は、平成21年に策定された現行の「名古屋観光戦略ビジョン」をほぼ10年ぶりに策定しなおすもので、平成31年度（２０１９年度）から概ね10年先を見越したうえで、計画期間を平成35年度（２０２３年度）までの5年間としており、平成31年3月に策定・公表しました。

本市を訪れる観光客数は、ここ10年間で緩やかな増加傾向にあり、２０１７年度の観光入込客数は、４、５７５万人となっているほか、宿泊客数については、２０１７年度の宿泊客数は６２４万人となり、特に、外国人宿泊者数は、10年前と比較して約2・8倍に増加し、１０５万人となっています。



出典：名古屋市「名古屋市観光客・宿泊客動向調査」

この戦略の中で有松地区は、「歴史・文化魅力軸」の重要な歴史観光コンテンツとして、位置づけられております。この「歴史・文化魅力軸」というのは、名古屋城から大須、熱田を介して、有松・桶狭間までを、本市における魅力エリアとして積極的にＰＲしていくというものです。

また、歴史的町並み等を活用した魅力向上策として、伝統的な建造物が数多く現存する有松、四間道、城山・覚王山エリア等とともに歴史的建造物や町並みを保存・活用にも取り組んでまいります。

最後に、なんといっても観光地開発には、地域の観光団体等の担い手育成・支援による受入体制の強化が重要です。平成30年度は、地域のＮＰＯ法人様、鉄道事業者様とともに、有松のキャンペーンを行いました。絞り体験や、おいしいグルメなど、地域の皆様にご協力をいただいたおかげで、ご好評を頂いております。今後も、皆様とともに、有松・桶狭間地区の観光地開発に取り組んでまいりますので、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げる次第です。

●観光入込客実人数
観光入込客実人数とは、名古屋市内の観光施設への来訪客数の総数を平均立寄箇所数で除した値。名古屋市に訪れる観光客の実数を示す。

名鉄・有松しぼり体験きっぷ

２０１８年10月26日㈮～11月30日㈮の約一か月間、名鉄による有松しぼり体験きっぷが発行されました。これは、名古屋市の観光推進事業の一つでもあり、行政、名古屋鉄道、ＮＰＯ法人コンソーシアム有松が連携をとって行った初めてのイベントです。

地元では、参加店舗、有松あないびとの会、有松天満社文嶺講も期間中休むことなく対応をしていただき、町全体で来町される方々をお迎えする体制を整えました。

期間中はテレビのＣＭを放映し、名鉄の主要駅（名古屋駅、金山駅）では大々的にポスター・リーフレットを掲示するなど広報を徹底的に行いました。

期間の初めは、キャンペーンきっぷの利用客は少なく、来町者も少なかったのですが、ＣＭの回数を増やしたり、キャラバン隊を金山駅に送り込んだりすることで、徐々に効果が現れ始め、最終的に有松駅の乗降者数は昨年の同じ時期に比べ、期間中約３、０００人も増える結果となりました。興味深いのがそのデータですが、利用者の約90％が女性でした。これには名古屋鉄道側もおどろいておられました。

お客様はテレビＣＭやリーフレットを見ることで、深い関心を持って来町されます。期待を裏切らないためにも、キャンペーン後に見えてきたおもてなしの修正点を改善し、もっともっとわくわくするキャンペーンにしていかれればと思っています。

ＮＰＯ法人コンソーシアム有松　担当　山上　正晃

60,000 部作成されたリーフレットは、名鉄の各駅に配布されました。

作成された３種類のポスターのうちの１種類

第41回全国町並みゼミ 長野松代・善光寺大会に参加して

町並みを守って歴史文化のまちづくり～次世代へ・未来へ、伝える・つなぐ～

２０１８年11月16日㈮～11月18日㈰の３日間にわたって大会が開催され、２日目の第４分科会（以後分科会）テーマ：「歴史文化を活かした観光まちづくり」～文化財保存と観光の調和及び体験と交流、魅力の創造～へ参加した報告をします。なお、分科会へは有松から７名の参加がありました。

分科会では午前中、町並み見学がありましたが、町並みや建物の説明において、もう少し深く説明して欲しかったです。しかし、体験（真田紐織り、甲冑体験、古武道体験）と無料の湯茶接待は非常によかったです。建物は、すべて長野市の管理下にあり見学料が必要でした。有松とは環境が違っていました。午後は松代小学校でテーマについてのパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは観光と言っても[1]発地型観光と[2]着地型観光の違いがあり地域主体の「着地型観光」を目指すべきとの話がありました。

1)発地型観光：従来型　大手旅行会社が企画→町並みなどの観光資源にフリーライド（タダ乗り）

2)着地型観光：新型　地域で企画→観光で得られる利益が町並み保存にまわる

今回、全国町並みゼミに参加して、参加者は顧客満足についてばかり考えていて、地域住民の意向については全く考えていないようでした。このことは、本末転倒ではないかと思い、有松では地域住民の満足度を第一に考え、次に顧客満足を考えていくべきと感じました。

次回の全国町並みゼミは埼玉県川越市で、２０２０年１月31日～２月１日に開催されます。

事業部　山田　修生

晩秋の有松を楽しむ会 2018　11月3日(土)4日(日)

有松をいけばな・きもの・アートで彩る2日間！

初の岡邸での展示販売

竹田家茶室「栽松庵」での呈茶

棚橋邸、あないびとの町並みツアー

有松東海道を飾るいけばな

久田邸、寿限無茶屋でのコンサート

演奏といけばなのコラボレーション

全国町並み保存連盟『第一回東海ブロックゼミ伊勢大会』に参加して

平成30年12月8日、三重県二見浦の賓日館で表題の行事が開催されました。本来は竹田会長が出席されるところ都合が悪く、私が代理で出席させて頂きました。

伊勢河崎の高橋会長からは、『有松からは、山田さん、伊藤さんはじめ複数出席して下さって』と、お礼を言われました。当日の参加団体は、犬山まちづくりの会、一般社団法人飛騨市観光協会、ＮＰＯ法人東海道関宿、あいの会「松坂」、ＮＰＯ法人伊勢河崎まちづくり衆、ＮＰＯ法人二見浦・賓日館の会、全国町並み保存連盟、三重建築士会連合会、みえヘリテージの会、伊勢市都市計画課、三重県地域づくり団体、高知県の個人会員、総数約70名の参加でした。今回は東海ブロックゼミ初開催で、二見浦賓日館開館15周年記念事業と同時開催でした。現在東海ブロックは12団体で構成され、今回7団体の参加でした。来賓として伊勢市副市長が出席され、幹事団体の賓日館奥野会長から『賓日館の公開と活用』についての報告がありました。又、全国町並み保存連盟の事務局長の山本氏から、各団体の活動報告とその意義について説明があり、個別各団体からの活動報告があり、『次世代にどうつなぐか』のパネルディスカッションが行われました。犬山、松坂、関宿の方がパネリストとなり、まず活動拠点を持つ、活動目標を持つ、町並みを守る意識の強い人に入ってもらう等ご意見がありました。第2部は『どう活かすか東海ブロックのネットワーク』の題目のもと、飛騨市、伊勢河崎、有松まちづくり、二見浦賓日館の会がパネリストになり、それぞれ発言や質問等受け答えしました。結果、北信越地区との関連もある飛騨地域との連携も大切なのではとの意見があり、次回開催地として飛騨市が承認されました。会議終了後、賓日館大広間で懇親会が行われました。地元の方々の心からのおもてなし料理に感心いたしました。開催地の高橋会長、地元の各団体や個人の方々の準備やご苦労がよくわかりました。今後の町並み保存運動にとって、大変有意義な会となりました。

副会長　久田　耕一郎

会報八十号を記念して

顧問　服部　豊

昭和四十八年有松まちづくりの会が産声をあげて十年後会報第一号が昭和五十八年三月に発行されました。今迄三十七年間絶える事なく年二回の会報を地元の会員及び全国各地の有識者の皆様の御意見を戴き今日まで引き継がれて八十号という大きな節目を迎える事が出来ました。四十年程町の保存保護に努力し続けその間には山あり谷ありいろいろな問題に直面しましたが、皆様の努力によってすべて乗り越えて参りました。平成の時代に入りまして、有松開村四百年の式典も盛大に実施する事が出来ました。その後永年の夢であった東海道の整備(電線の地中化、一方通行、一里塚復元)これによって町は江戸の空を取りもどし、観光の皆様もゆっくりと有松の町並みを見学出来る様になって参りました。又文科省から重要伝統的建造物群保存地区の選定も受ける事が出来、一昨年は全国町並みゼミ第四十回の記念行事も名古屋有松で実施致しました。今後は百号、百五十号に向けて若い人との世代交代をし、町の活性化に向けて頑張ってほしいと思います。この節目をターニングポイントとし前進あるのみだと思います。まもなく平成の時代も終わり新元号の時代となります。心新たに皆様と共に頑張りましょう。

有松と出会って

南山国際中学・高校教員　馬場　豊

初訪問は、十年前の夏。街道に並ぶ絞り商家の重厚なたたずまいに、胸ときめかせました。後日、近くに捕虜収容所があったこと、城山三郎が小説「捕虜の居た駅」を書いたことを知り、さらに興味が深まりました。

成田治氏、山田峯夫氏、絞り技能者から話を伺い、絞り産業の特徴・変遷や建造物保存活動のご苦労などを知るにつけ、なぜか絞りの町の戦時中の物語を現在につながるものとして描き上げたいという思いが芽生えました。

取材を重ねた二年後、「捕虜のいた町」という作品が完成。様々な方のご協力を得て二〇一六年、有松・鳴海絞会館で朗読劇として上演。俳優天野鎮雄・山田昌さんが素人グループに参加下さり、舞台は大成功。二〇一七年、「戯曲　捕虜のいた町　～城山三郎に捧ぐ～」(中日新聞社)を出版。

今は、収容所跡と城山三郎の事績を戦争遺産・文学遺産として地元に残し、平和の尊さを未来に語り継いでいこうと、昨秋発足した「捕虜収容所跡を残す会」に参加しています。

＊活動予定

四月二十一日(日)一時三十分～(棚橋邸)
経過報告、学習会、収容所跡見学。

六月九日(日)十一時～、三時～(棚橋邸)
朗読劇「捕虜のいた町」上演(有料)。

皆様、ぜひご参加下さい。

平成を振り返って

有松西町在住　藤本　朱美

夜遅くホームに電車が到着する。階段を上り改札を出ると、ちょうど目の高さの西の空に白々と三〇二号線の道路が横たわってみえる。見上げると空が昔より近い。30年前にはこんな風景を見ることになるとは思ってもいなかった。歩道橋を渡り階段を下りると、そのまま旧道に進む。闇の中に静かに沈む町並みを見ながら帰る家路がたまらなく好きだ。

思えば平成の間に有松は変わった。小さな町おこしの祭りかと思っていた絞りまつりは、今では何万人もの人々が集まる一大イベントだ。そうなるまでの絞り関係の方々の苦労を思って頭が下がる。日々観光客を案内して歩くあないびとの元気な声を聞くと、私は有松の歴史のいったい何を知っているだろうと恥ずかしい思いにうなだれる。

他にも天満社の祭りを盛り上げるため陰で黙々と働く総代さん、夜の有松を幻想的に浮かび上がらせてくれる竹あかり、若い人の興味を引くような素敵なデザインの絞りを考案するデザイナーさん…。新しい元号になっても、きっと有松の未来は明るい。

そんなことに思いを馳せながら自宅に着き小さな不満がふっと沸いた。この辺りも「有松の未来」とまでいかなくとも、もう一つぐらい防犯灯があってもいいのにな、と。

有松の色 藍の歌

参与 山田 峯夫

尾張藩の一枚の御触書により移住した人々により創始された有松絞は藍染に適した清らかな水に恵まれ、技術の進歩により東海道の名産として全国に知られ、その繁盛ぶりを多くの歌人が歌句に残した。都市化が進むなか現代から隔離した様な伝統的建造物群保存地区に選定された町並みは、広重らにより浮世絵として画き残された。有松の街道沿いには古い名歌が碑に刻まれている。現代の歌人が詠んだ藍青に纏わる歌句を取り上げてみた。

白鳥はかなしからずや空の青
　うみのあおにも染まずただよう　若山牧水

紺青を絹にわが泣く春の暮
　やまぶきがさね友歌ねびぬ　与謝野晶子

青く透くかなしみの玉枕して
　松のひびきを夜もすがら聴く　石川啄木

藍色の馬はあゆめり蒼白の
　世界の奥に呼ぶものの居る　佐々木幸綱

染めあぐるインジゴブルーの麻の布
　わが独り身にかなふと想ふ　春日井健

色ならば我は紺青、春に泣く
　友はやまぶき、歌をみがいて　俵万智

藍染の水冷たくて蕗のとう　加納染人

有松の色は藍青、世界に名立たるジャパンブルー。永久にかわらぬ色と香です。

平成の時代をふりかえって

有松福よせ雛さんぽ道実行委員長 中濵 豊

平成の時代は〝平成〟の文字とはかけ離れた時代だったように思います。経済的にはバブル景気が初頭にはじけ、雇用、労働、生産、賃金体系等が大きく変わりました。有松の平成30年間も、やはり大きく変わったように思います。名古屋市公共事業における、駅南側区画整理と駅北側再開発事業、そして東海道の無電柱化施工及び一方通行と私たちの暮らしに大きく影響を与えた出来事がありました。かたや江戸時代から続く町並みが多くの方々の努力により〝重要伝統的建造物群保存地区〟に国から選定されました。そして更には有松の宝である〝重伝建の町並み〟と〝名古屋市指定文化財の山車三台〟と〝伝統的工芸品の有松鳴海絞り〟を一括して「日本遺産」に、とする官民一体となっての動きもあります。

新しい時代が幕開けしますが、変わっていくもの、変わらないもの、変えていかなければいけないもの、そして変えてはならないものを、50年、100年先を見据えて選択をしていく事ができれば、次の時代も有松は益々良い町になっていくと思います。

さて、そのような考えのひとつとして取り組み、今年で4回目を迎えた〝福よせ雛〟のイベントがあります。この企画は、日本の伝統文化である〝ひな祭り〟で役割を終えて人形供養に出されて消えていく運命にある人形達を、町の賑わいの為に再度役割を与えて活躍をしてもらい、また見た方々にもほのぼのとした気持ちになっていただくようにと企画した催事です。福よせ雛を見ながら有松の散策を楽しんでいただければ幸いです。

平成を糧に

有松あないびとの会 伊藤 弥生

有松あないびとの会は平成十五年一月に発足しました。私は平成十四年に生涯学習センターでの講座受講を機に会員となりました。

このころ私は子育てに奮闘中で家庭中心の毎日でしたが、会員になり、有松について学ぶチャンスをたくさんいただきました。有松の魅力にふれ、私自身視野が広がるきっかけとなりました。

有松は平成二十八年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、最近は海外からの観光客の方がぐっと増えています。外国の皆さんに楽しんでいただけるよう、会の中に国際部もできました。

たくさんの出会いがあった平成。時代とともに、ますます有松は活気づき、有松あないびとの会の会員も増えてきています。

訪れた皆さんに寄り添ったおもてなしができるよう、私も会員の一員としてこれからも学び努めていきたいと思います。

有松あないびとの会「有松町並み歩き」のお知らせ

日時　5月18日(土)10時より受付
「ふるさと有松を体感しよう」
A　茶室（抹茶）体験コース
B　絞り染め体験コース

※ 参加費無料
※ 詳細はあないびとの会にお問合せください。

有松まちづくりの会　総会

◆日時　5月16日㈭13時30分より
◆場所　有松・鳴海絞会館
◆講演会　山根兼昭 氏
「有松を訪れた頼山陽（仮題）」

町並み研修会

◆日時　未定（絞りまつり以降の予定）
◆行先　郡上八幡方面の予定

第35回 有松絞りまつり

◆6月1日(土)・2日(日)
テーマ「有松プレゼンツ、日本のステキ。」

◆主な来訪者◆

（有松あないびとの会ご案内分）

・桜花学園大学
・石川県教育委員会
・安八てるて姫の会
・トラピック中部（東海道）
・名古屋やっとかめ文化祭
・三重　香肌商工会
・春日井市（姉妹都市ケローナの皆さん）
・桑名シルバー人材センター
・東海自然大学ハイキングクラブ
・有松・桶狭間・東丘・広見他近隣小中学校
・三越伊勢丹旅行
・名古屋国際協力センター
・安城教育委員会
・島田年金協会
・一宮中日文化センター
・南知多町文化協会

街角ウォッチング⑮ ～進化する町並み～

平成の二十年代、有松の町並みはずいぶん変化しました。

有松東海道無電柱化の会が先頭に立っての無電柱化、一里塚、302号線、中町信号、重伝建選定。そしてデイサービス、ゲストハウス、カフェ、観光案内所など色々な形態の施設ができて、以前より賑わいのある東海道になりました。

ここ数年、文化財の公開も行われています。一棟の建物としては有松の町屋で一番大きい岡邸の一般公開は昨年の一大ニュースでした。外観は勿論内部の造りや調度など、見学された誰もがその重厚さと絞り商の繁栄に思いを馳せたことでしょう。

これからも有松を訪れる人は増えていくでしょう。そして町並みをステージとして、色々な催しも行われます。それに対応する町並みの変化もあると思います。有松らしい雰囲気を壊さないよう静かに進化していくことを願っています。

（浅野康子）

俳句

「春の町」
案内人（あないびと）声もうきうき春の町　鈴木　義光
老木にたえない笑顔桜咲く

編集後記

「平成最後」の冠のつく見出しを多く見かける昨今。会報有松もこの80号がそれとなります。有松の先人たちがまちづくり活動を始められて半世紀。会報は会発足後10年を経ての創刊で、以来ずっと有松まちづくりの会の足跡を記してきました。長年の夢であった「有松東海道の無電柱化」、「重要伝統的建造物群保存地区の選定」「全国町並みゼミ名古屋有松大会の開催」を実現した平成の有松人の目覚ましい記録もたくさん。凄いものです。

さぁ新時代に何を目指していくか、今みんなで考えようと80号を企画しました。皆さんのご意見もぜひお寄せください。

（加藤明美）

企画編集（加藤一成・長塚啓・福岡友一・伊藤総俊・成田満）

会報有松は、有松まちづくりの会ホームページに掲載しています。「有松のまち」で検索。

http://www.arimatsunomachi.com/

〈有松まちづくり憲章〉

私達は、先人から受け継いだ有松のたからものを守り、次世代に届けるために、この憲章を定めます。

一、有松の町並み・絞り・山車を守り、誇ります。
一、人と人とがつながり、ぬくもりのある有松を創ります。
一、有松の歴史や物語を学び、遊び、伝えます。

有松まちづくりの会
二〇一九年三月三十一日発行
（年二回発行）
〒458-0924
名古屋市緑区有松三〇一二（有松商工会内）
TEL（052）621-0178
FAX（052）622-7401